

THE WEEKLY NEWS OF FUTTSU-CHUO

ロータリーの未来はあなたの手の中に
The Future of Rotary Is in Your Hands
国際ロータリー会長 John Kenny



世界にも目を向けよう
Reaching Out to the World
富津中央RC会長 志波 克

2009～2010

国際ロータリー 第 2790 地区 富津中央ロータリークラブ 創立:1966/10/13 加盟承認:1966/12/12
RI D2790 FUTTSU-CHUO ROTARY CLUB Organized : Oct./13/1966 Chartered : Dec./12/1966

No.2118 第2回例会 2009. 7. 9 曇

点 鐘 : 志波 克 会長

進 行 : 大網庄一郎 副 SAA

ソング : 我らの生業

誕生祝い

千葉一利会員 S7 年 7 月 25 日 (77 歳)

会長挨拶

志波 克 会長

新しく会員になられた方も多いため、会長挨拶はなるべくロータリーについての話題を取り上げて行くつもりです。系統だった話は出来ませんので、それは新人研修会等で勉強して下さい。又ベテランの方々には復習の機会にして頂ければ幸いです。

ロータリーは事業者、専門職、地域社会のリーダー等、約120万人が参加している国際的な組織です。世界に33,000以上のロータリークラブがあり、その会員はロータリアンと呼ばれ、人道的奉仕や職務における高い倫理基準を奨励し、世界の親善と平和の確立に寄与しています。

ロータリーの説明を読むと大体こんな風にかかれています。分かったような分からないような感じだと思いますが、心配しないで下さい。当クラブの初代会長、笠原文夫氏は「ロータリーとは学ぶものではない、体得するものである」と言っています。

そして「佐藤千寿著・ようこそロータリーへ」では、「ロータリー精神とは言葉で簡単に表現すれば「一人一人が他人の立場に立ってものを考え、他人の

お役に立つような行動をしよう」ということだ」と言っています。まあ、そんなことを考えながらゆっくりと過ごしていれば、数年で会長職が回ってきても心配ない位の知識が身につきます。

世界や日本のクラブ数、会員数、又ロータリー小史、綱領等が毎月「ロータリーの友」の横書きページ初めの方に載っていますので偶には見て下さい。

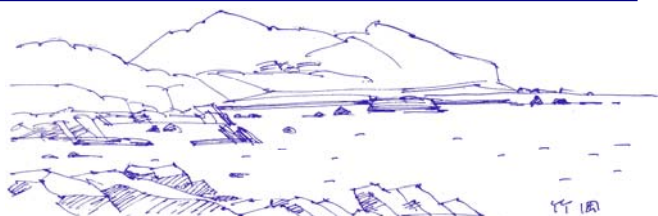
ついでながら、ロータリークラブが集まって国際ロータリーを構成しています。これの原語は **Rotary International** ですので、国際ロータリーのことを略して“RI”と呼ぶことが多くあります。

ロータリーには「手続要覧」という手引き書がありまして、ロータリーそのものの定義からその方針、奉仕に関連する手続などが書いてあります。

手続要覧は3年毎に改訂出版され、現在は2007年版が最新です。

大体どうしても必要な時以外は読まない本ですが、今回私は偶々、「RIテーマ」という項を読んだら、「RIテーマ(その年度のRI会長テーマ)は、用いるべき唯一のテーマであって、他のテーマの使用は控えなければならない、ということにRI地区とクラブの全役員の注意を喚起する」と書いてあって驚きました。原文となった「ロータリー章典」を見たら、「地区大会やその他の地区会合、印刷物、RI役員による公式訪問において・・・他のテーマは使用しないよう極力務めるべきである」となっているので、一寸

〒293-0042 富津市小久保2868
さざ波館 Sazanami-kan
2868 Kokubo Futtsu-shi Chiba-ken,
Zip code 293-0042
Tel.0439-65-3373 Fax 0439-65-3304
URL <http://www.7b.biglobe.ne.jp/~fcr>



解釈が混乱しますが、これも「手続要覧」の特徴のようです。

いずれにしてもクラブ・リーダーシップ・プランの精神と矛盾するような感じもありますので、多分そのうちにこの項は無くなるだろうと思います。

RI会長ジョン・ケニー氏は、今月のメッセージでスコットランドのことわざ「自分の庭の外に目を向けよ」を引用して素晴らしい提言をしております。一瞬、私の今年度テーマ「世界にも目を向けよう」が引用されたのかなと思いました。「ロータリーの友」7月号を是非ご覧下さい。

会長報告(理事会報告(7月2日))

1. 例会プログラム(7/9～8/6)

- 7/09 誕生祝、本年度予算発表、卓話(高島治雄 スイス旅行)
- 7/16 ガバナー補佐来訪、活動計画発表
- 7/23 活動計画発表
- 7/30 卓話(千葉一利)、活動計画発表
- 8/06 誕生祝、勉強会(原田雅式副会長 CLPについて)

2. 本年度予算案確定

- 3. 国旗、ロータリー旗、会場用電波時計の3点を新調する。予算は交換学生基金の取崩し。

幹事報告

平川恵敏 副幹事

- 1) 2009年7月国際ロータリー半期報告書が届いております。
- 2) 塩山 RC より 2009年～2010年度活動計画書と週報が届いております。回覧いたしますのでご覧下さい。
- 3) ロータリー米山記念奨学会より 2009年度上期普通寄付金のお願いの手紙が届いております。
- 4) 第2790地区広報・情報委員会カウンセラー増田裕様より当クラブの活動計画書を一部ご恵贈くださるようにとお葉書をいただいております。
- 5) 日本赤十字社千葉県支部より赤十字活動資金への御協力のお願いが届いております。
- 6) 地区大会記念ゴルフ大会のご案内がありました。
日時 2009年9月28日(月)藤ヶ谷 CC
締切日 2009年8月31日(月) 回覧します。

- 7) ロータリーの友より請求書が来ております。白石会員にお願いしました。

誕生一言「喜寿を迎えて」

千葉一利 会員



この7月25日で満77歳になります。世の中の人にはこれを「喜寿」といってお祝いをします。同期の高島会員は既に喜寿を迎え、子供達からお祝いにパソコンを貰ったそうです。私の場合も衆議院選が終わったら、1泊旅行に行こうかと計画しているようです。こんなに長生き出来たのも家族のおかげだと思っているのに、祝ってくれるという、嬉しいことです。

「喜寿」を私なりに解釈してみますと、「喜」は略して「崑」と七を3つ使って書きます。よって、七十七歳を「喜寿」といったのだらうと思っています。

辞書を引いた訳ではありませんが・・・

ちょっと話の質が落ちますが、パチンコで七がそろろうと大当たりです。今年、ラッキーセブンの年で、ギャンブルは良いと、勝手に思いこんでいます。

また、その他の生活面でも何か良いことがあると自分に暗示をかけています。

念ずれば通ずるでしょうか。

卓話「スイスを旅して」

高島治雄 会員



ドイツのルフトハンザ航空で飛びましたので、

途中フランクフルトでトランジットし、ジュネーブに入りました。ホテルに着くまで約 15 時間、フランクフルトで約 2 時間の中継時間があつたにせよ矢張り遠いです。高齢者には疲れます。事前に承知はしていましたが、それでもスイスのあの地球の壁でできあがった素晴らしい山丘風景と美しい自然に魅せられての今回のメモリアルツアーでした。今回の目玉はスイスの三大名峰モンブラン(4,807m)、マッターホルン(4,478m)、ユングフラウ(4,158m)とアイガーを訪れ、この目で見ることに、スイスの首都ベルンの世界遺産、そして南のスイス最大のレマン湖畔に開けるジュネーブ、更に北部の世界金融機関が集まる国際都市チューリッヒなどの街並観光をすることでした。いずれも期待にたがわず私にとっては期待以上に素晴らしかった。神々しささえ感じさせる 4,000m を超える山々の姿、随所に氷河が押し出され、それらが溶けて何百米の落差の滝が出現している光景は、唯感嘆するのみです。一方、国土の 3/4 が山で占められているスイスでは、急な山腹を上へ上へと、人の勤勉さで切り開き美しい緑の牧草地や麦畑、更にはブドウ畑を作り出し、その傾斜地にたたずむスイス独特の木造屋は正にハイジの世界を彷彿させる心和む風景の連続でした。今、これらの情景を言葉で表現できないもどかしさを感じますし、自然は、人間の思いを超えた力を持っているものだと感じます。まだ、デジカメで撮った風景をまとめてないのが残念ですが、いつか機会があればお見せしたいものです。今回の旅行で最も印象に残っているとことは何と言っても朝焼けのマッターホルンの雄姿です。マッターホルン観光の根拠地ツェルマットの町の中を流れる雪どけの青白濁色の川の流れの上に立つ橋の上からみた頂上の積雪がピンクに染まる朝焼けのマッターホルン(色々の角度からいろいろな姿を見せるようですが)丁度、そこからは高僧が袈装をなびかせて座禅を組んでいる姿に似て、その神々しさに唯オ～、ア～、しか言えない自分を知りました。ツェルマットに一週間滞在して 2 度位マッターホルンが見えればラッキーと言われますが、天候に恵まれ、こんなにも青空を背景にたたずむマッターホルンの朝焼けの顔を見られることは、幸運としか言えません。

この、ツェルマットの町も忘れ得ない所です。町

の中に 1 台のガソリン車をも走らせません。走っているのはすべて電気自動車、馬車、自転車、そして徒歩のみなのです。旅行者の自家用車、観光バスも一切シャットアウトです。ツェルマットの 1 つ手前の電車の駅で 1 日 10 フラン位の駐車料を払い電車に乗り換えてのツェルマット入りです。エコに徹底していて驚きでした。スイスだからできるのでしょうか。次は、ユングフラウ山観光のメッカ、インターラーケンから登山電車で約 2,000m まで登りそこから見る 4,000m 級の山々が連なるスイスアルプスの山脈の美しさでした。その登頂成功に 80 年かかったかの有名なアイガー、その隣のメンピ(4,099m)更に右隣の三大名峰の一つユングフラウ(4,158m)と連なる山々の壮大さをオニギリ弁当を食べながら眺めるひとは圧巻としか言いようがありませんでした。そのほか、登山列車で登りつめ、そこから大氷河を見るモンテペール展望台からの光景も忘れ得ずきりありません。都市では、フランス領に接し、世界の著名な人々が別荘をもつレマン湖のほとりに広がるジュネーブでしょう。国際機関が 200 以上も集まるジュネーブ、人口 18 万人の内、その 1/3 は自国外の人々が住むと言われ、高層ビルが 1 つもない落ち着いた中に世界的な有名な企業のビルが並んでいる。街の観光スポット、モンブラン橋から見るジュネーブの街中は印象に残ります。もう 1 つは、スイスの中央部に位置する古都、永世中立国を宣言した発祥の地ルツェルンの町、更にはスイスの首都ベルン熊のベアーから由来して名付けられこの首都は、落ち着いた地味な首都である。丘の上にあるバラ園、バラの香りがむんむんするその公園を市民が上半身裸になり日光浴を楽しんでいる平和の姿を横に見て、川に囲まれたベルンの街並を見下ろすと大変イタリアの古都フレンツェによく似ていたなどなどである。

この旅行中、あたり前の事だけれど、よく観光バスと列車に乗りました。スイスの道路はよく整備され、驚く事に山々の中腹、時には頂上近くまで舗装された道路が続き、中腹に点在する家々にまでのびている。それでいて高速道路料は、ミニエントと言われ 40 スイスフランを払ってシールを貼れば、どこへでも自由だと言う。鉄道も登山電車を含め至るところに張りめぐらされていて、その普及率は世界一

と言われるスイスを旅して、氷河特急やいたる所の登山鉄道に乗らなければ旅にならないと言われるのがよくわかる。もう1つ印象に残ったものは2日目の昼食、お新香、ヒジキの煮物、肉じゃがそして厚味の焼鮭とお代わり自由の御飯の和食、そして前述したタクワンとオニギリ弁当にも見られる和食の提供である。いかに日本人の観光客が多いかが証明されるもので、事実本当に日本人の旅行客が多く100mを歩くうちに必ずと言ってよい位日本語を耳にしたものである。

或る世界的なアンケートによると、世界中で一番住みたい都市の第1位はスイスのチューリッヒ、第2位は同じくジュネーブ、そして第3位はカナダのバンクーバーだそうだ。緑に囲まれ、抱え切れない程の大きな木の街路樹が連なる道路、そして落ち着いた佇まいの建物・・・うなずける。ちなみに東京は、46位とかちょっと気になるのは、物価が案外高いかなとも思われるところ、逆に日本の物価がどんどん安くなっているのかも。例えばミネラルウォーター3.6フラン(約320円)バナナ1本1フラン(約90円)そしてビールが350ml(ビン)3.8~4.0フラン(350円位)・・・である。

今までスイスの自然や都市、また垣間見た暮しぶりなど思い出すままに述べてきましたが、スイスを訪れてもう1つのカルチャーショックがありました。それは、スイスと言う国が永世中立国を宣言してからの揺るぎない国家としてのポリシーをもっているということです。スイスの国土は九州と同じ位の広さ、人口は約750万人。どちらかと言うと小国に属しましょう。カントンと称される(日本に例えれば地方自治体としての県)26の自治独立府から成り、スイスの国の憲章に反しない限りきわめて強く、かつ自由に自治が認められて国家が動いている。先程ツェルマットの街には、ガソリン車を1台も入れないなんて出来るのもそのカントンの条例で出来ることなのです。もう1つの特徴は武装中立平和国家を保つという強いポリシーです。日本は憲法で非武装平和国家を目指すわけですが(このポリシーがいいか、どうかわかりません・・・)

どの国にも組しない、しかし自国が侵されれば敢然として武力を行使して国民を守るこのポリシーです。その為に20歳から50歳まで各年代に応じて延

1年間兵役につく義務があります。その間は政府が有給を保障するそうです。20歳代の兵役が終わると各家庭に銃と実弾25発、軍服が支給されるとのことです。一方よく整備された道路は滑走路に早変わり、また侵略してくる軍隊を阻止するために道路に突然障害物が表われる仕組みがあるとか、そして究極的には各家庭に天井35cm以上横壁20cm以上の厚みを保つ奥行6mのコンクリートの核シェルターを設置することが義務づけられ、その中に小麦粉2kg、砂糖1kg、水20Lを常設することまで徹底した防衛ぶりである。勿論予算を計上し国とカルトンが補助金を出す訳ですが、このような強いポリシーと具体的な施策、そして、それに伴う国家としての保障、このことは大きなカルチャーショックでした。皆さんどうお考えでしょうか。

以上、思い出すままにスイスを旅行しての感想を申し述べてきましたが、このような卓話の機会をいただいでその見聞を整理することにより2度スイスの旅行ができたことを感謝します。

ニコニコBOX

山田昌雄 親睦担当部長

渡辺 務 新年度の船出を祝します

高島治雄 卓話をさせていただいて、2度スイス旅行が出来ました

三枝一雄 新年度出発を祝い

梅雨霧の晴れゆく沖へ船出せむ かずを

*千葉一利 誕生祝いをいただいて

* >1,000円 合計6,000円

出席報告

高橋裕之 出席担当部長

区分	会員数	出席	欠席	MakeUp	出席率
今回	21	15	6	3	85.71%
前回	21	17	4	4	100%

マザー牧場便り

三井 進 会員

7月13日(月)20:00からの世界まる見えテレビに羊の毛刈りが紹介されます。ご覧下さい。